

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ブロッサム	代表者	藤原 美里	法人・事業所の 特徴	開設してから、「地域の人気者」をモットーに地域に密着した事業所を目指して活動しています。利用者の生まれ育った環境等を理解し、その方らしく自立した生活ができるよう役割をもって日々支援していきます。 その方に関わる全ての人々が少しでも幸せに生活できるように、住み慣れた地域で少しでも長く生活できるように、地域の方にも認知症を知っていただき理解して頂けるように取り組んでいきます。
事業所名	小規模多機能センターきらり妹尾	管理者	藤原 美里		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	6人	人	人	1人	1人	8人	人	17人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者の生活や性格を把握し、在宅での生活を維持していけるように、しっかり関わりをもち、情報を共有し楽しんで生活して頂けるように取り組む。	利用者の知り得た情報は、細目に共有できるように記載、口頭で報告するようにしている。自宅での出来る事を通いの際に行い継続できるようにした。	なかなか情報が正しく伝わっていないことがある。自宅での役割を聴き取りし活動に行かせていけたらと思う。	ICTやAIツールを活用し職員の業務負担を軽減しケアの質の向上に注力できる環境を整備する
B. 事業所のしつらえ・環境	四季を感じられるように、イベントや外出の回数を増やす。利用者が楽しく笑顔が増えるように体も心も元気に出来るように支援していく。	月のカレンダーを作成し、前の月に行事担当が翌月の行事を決めて季節に関するイベントを利用者と一緒に楽しんで出来るように計画し実施できている。	イベントは行っているが利用者の意見は反映させていない。したいことや食べたいものなど聞き取りし組み込んでいけたらと思う。	利用者の意見を聞いて、その方がしたい。行きたい所を聴き取りに実現できるようにイベントに活かし取り組んでいく。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方が気軽に立ち寄り、交流や相談が出来るよう地域の拠点、相談所になれるように活動していく。	施設の名前が入ったユニフォームを着て、地域のごみ拾いをしたりイベントに参加したりと施設の認知度を上げるように活動を増やした。	地域の活動にもう少し参加出来たらという思いはあるが、あまり情報がない。	イベントの時は地域の方に参加して頂けるように、発信できる場を設ける。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域のイベントだけではなく利用者一人一人のこれまでの地域での役割を確認しサロン活動や近所の方との交流ができるようにする。	本人からの話を聞き取りし、地域のサロンなどを探し住み慣れた地域での活動に参加できるように取り組んだが、結果としてあまり残せていない。	送迎等でその方の住んでいる地域に行くことはあるが、地域の方との交流や活動までに至っていない。	地域でのサロン会などを調べる。住み慣れた地域で活動できるように、認知症の理解を深めてもらうように啓発活動を行っていく。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	地域の集まりやイベントで地域での困り事など聞き取りを行い、どのように支援していけばよいか検討していく。	運営推進会議や地域での会議に参加し、話を聞き取りながら困り事や相談ごとがないか把握し支援の場を広げようとした。	会議での話を共有する場がなかなかなく、活かせていない。	会議で頂いた意見を、職員間で共有しイベントや取り組みに活かせるようにする。
F. 事業所の 防災・災害対策	防災について、会議等で情報を共有し、施設での備えやマニュアルを改正していく。 日頃から防災について意識して取り組む。	防災についてのマニュアルや研修を計画しているが、なかなか実施するまでに至っていない。	備品等の場所が把握しきれていない。しっかりマニュアルや備品がすぐわかるようにしていく。	定期的にマニュアルや備蓄品を確認に常に緊急時に備える。防災訓練を行い、日頃か意識して活動していく